

令和元年度ケアプラン点検報告

山口市介護保険課

1. 目的

居宅介護支援事業所の介護支援専門員が作成するケアプランを点検し、利用者にとって真に必要なサービスを提供するケアプラン(自立支援に資する適切なケアプラン)であるかを、作成者である当該介護支援専門員とともに検証確認しながら、気づきを促すことにより、ケアプランの質の向上、介護支援専門員の資質向上を図り、介護給付の適正化を図る。

2. ケアプラン点検の方法 (実施期間: 令和元年9月～令和2年1月)

書類審査及び面談によるヒアリングを行った。

点検実施者	点検対象としたケアプラン	点検実績
山口県介護支援専門員協会(委託)	支給限度額に対するサービス利用の割合が高い、サービス付き高齢者向け住宅又は有料老人ホームに居住している利用者のケアプラン	50件 (25事業所×2件)
山口市	支給限度額に対するサービス利用の割合が高い、在宅の利用者で、経験年数の短い介護支援専門員が担当する利用者又は経験年数の長い主任介護支援専門員が担当する利用者のケアプラン	12件(5事業所)

3. 点検結果

アセスメント
【優れた点】 <ul style="list-style-type: none">施設やデイ職員との連携を密にしてアセスメントを深めている。項目ごとに「生活全般の解決すべき課題・望む生活」という部分があった。聴き取りをすると情報を把握されている。
【課題点】 <ul style="list-style-type: none">アセスメントはしているが、シートの情報が更新されていない。情報が古い(引き継いだまま、施設入居前の情報のまま等)。聴き取りすると本人の状況は把握されているが、アセスメントシートへ反映されていない。他者からみてわかりにくい。本人の状態の記載はされているが、現状の確認にとどまっており、課題の抽出に至っていない。課題等の記載がないため、支援につなげる根拠が薄い。本人の「人となり」に関する情報(生活歴、趣味等)が少ない。

第1表 居宅サービス計画書(1)

【優れた点】

- ・総合的な援助方針が分かりやすい。
- ・認知症の進行しているケースについて、本人の気持ちを考えた表現になっており、ケアマネの苦心が理解できる。

【課題点】

- ・本人がどのような生活を送りたいか引き出せていない、本人の発した言葉のみ記載している。
- ・意向が抽象的で総合的な支援の方針が明確でない。
- ・意向が聞けていないわけではないが、記載の仕方がサービス優先になっている。

第2表 居宅サービス計画書(2)

【優れた点】

- ・短期目標に対するサービス内容が具体的に記載されている。
- ・課題の優先順位など、本人や家族の意向を確認しながら位置付けている。
- ・本人が役割を持ち、満足して過ごせるようにプランを作成している。

【課題点】

- ・長期目標・短期目標が抽象的な表現になっており、達成がイメージしにくい。
- ・アセスメントからニーズへの結びつきが不明瞭。アセスメントにあがっていないニーズがある。
- ・解決すべき課題・望む生活は書かれているのに、援助者の困り事を課題にしている。
- ・介護サービスのみが記載されており、本人のできること・していること、家族の役割等が記載されていない。
- ・本人や家族の要望のみで、サービス導入の根拠が不明確

第3表 週間サービス計画表

【課題点】

- ・介護サービスのみ記載になっており、施設での余暇時間の過ごし方やサービスのない日時の過ごし方が見えない。

4. まとめ

今回の点検では、利用者にとって真に必要なサービスを提供するケアプラン(自立支援に資する適切なケアプラン)であるかという視点から検証を行いました。点検結果からは、本人の意向を取り入れながら、適切なアセスメントに基づいて作成されているケアプランがある一方、サービス導入の根拠が不明確であったり、目標があいまいに設定されていたりする等、利用者の「自立支援」の視点が不足しているケアプランも見受けられました。

今回のケアプラン点検で指摘の多かった課題点については、次年度の点検においても重点的に確認していくとともに、今後の研修事業等に活かしていきたいと考えております。